

第6回 高根沢町学校規模適正化検討委員会 議事録

日 時 令和4年6月9日（木）午後6時30分～午後7時55分

場 所 高根沢町農村環境改善センター 研修室

出席者

（委員） 佐藤（栄）委員長、小堀副委員長、森委員、牧委員、岩崎委員、吉澤委員、
荒関委員、五月女委員、見目委員、檜原委員、増田委員、榎本委員、小池委員、
加倉井委員、郡司委員、飯山委員、石山委員、加藤（正）委員
（欠席委員4名）

（事務局） 坂本美知夫教育長

福田課長、小林課長補佐、福山管理主事、今平指導主事、渡邊係長、林主事

1 開会

2 教育長あいさつ

検討委員会も回を重ねるごとに議論が深まってまいりました。特に前回会議では、グループ協議により活発な意見交換をしていただき、テーマであった望ましい学級の人数や学年当たりの学級数について、具体的な意見が出されました。本日も更に議論が深まりますよう熱心な討議をどうぞよろしく願いいたします。

3 議事要約

議長（副委員長）	<p>それでは、議事を進めてまいります。本日も前回に引き続いてグループごとの協議を進めてまいります。</p> <p>協議の前に、本日、宇都宮大学地域デザイン科学部で作成した参考資料が出来上がりましたので、まず委員長からその資料について説明をしていただければと思います。</p>
委員長	<p>本日お配りした資料は、いわゆる“理論値”でもって、学校に通う子供の通学距離を算定した資料になります。「学校がどの場所にあればいいのか」という議論に進んでいく可能性がありますので、将来の人口に合わせて、「どこに学校があるとどれくらいの通学距離を歩くことになるか」を計算しているものです。</p> <p>まず、推計児童数については国勢調査データから500mメッシュごとの推計児童数を算定し、通学距離については各500mメッシュの中心点から中心点までの距離をすべて算定して、「総移動距離を最小化する方法」と、「最大移動距離を最小化する方法」の2つの方法で、小学校を1校配置する場合から6校配置する場合までを、それぞれ分析しました。「総移動距離を最小化する方法」は“みんなが公平になるよう平均の移動距離を下げる”考え方で、もう1つの「最大移動距離を最小化する方法」は“遠い距離の子供の負担・数を減らす”という考え方です。</p> <p>今回の資料は、単純な理論値として移動距離だけを計算したもので、学校の規模や学級数、既存校舎がどこにあるといった点は考慮しておらず、使える校舎を残す観点や、学級数、スクールバスを運行する場合といった条件を加えて算定した資料については、今後作成して提供したいと考えています。</p>

<p>議長 (副委員長)</p>	<p>ありがとうございました。委員長からも説明がありましたように、今後更に様々な情報・条件等をインプットした資料を、この会議に提供していくこととなりますので、参考にしていただければと考えております。</p> <p>それでは、グループ協議に入ります。協議テーマは、開催通知でお知らせしたとおり「望ましい学習環境の実現に向けた手段・方法について」をテーマとします。前回協議した「望ましい学習環境」は、1学級当たり 20～30人、1学年当たり 2～3学級という結果におおむね集約されてきたと思いますが、これを実現するためには、どのような手段・どのような方法が考えられるのか、グループごとに協議をお願いします。</p> <p>(それぞれ班ごとに協議を実施)</p>
<p>議長 (副委員長)</p>	<p>それでは、2班・1班・3班の順に発表をお願いします。</p>
<p>2班 発表者</p>	<p>2班で協議した内容についてです。</p> <p>まず、最初は阿小・西小をそのまま残す前提での手法についてです。</p> <p>1つは、阿小・西小を残して、そのほかの小学校を1つに統合する方法です。この場合、中央小については、学区の問題を踏まえ、2つの学校に分かれる方法も出ました。また、現在の東小・北中の校舎を利用して、小学校と中学校が一緒になった「義務教育学校」とする方法についても意見が出ました。</p> <p>もう1つは、阿小・西小以外の4校のうち、3校が統合し、小規模特認校1校を残す考え方です。この小規模特認校については、上高根沢小学校に限定せずに小規模特認校として残す考え方です。</p> <p>続いて、学区の見直しについての意見です。阿小と西小の児童数が多いことから、児童数をならすという考え方が出ました。例えば、阿小は「中央小と阿小」、西小は「中央小と上高小」などに分けて、学校の数は変えずに中央小や上高小の人数を増やすという方法です。</p> <p>これらの様々な統合等の方法を考える大前提として、「スクールバスの運用」が不可欠であろうという話になりました。そのほか、学童保育の対応や、グレーゾーンの子たちの対応についても考える必要があるということでした。</p> <p>また、統合等により使われなくなった校舎については、地域の拠点として残すべきで、地域の公民館との複合施設にするであるとか、廃校ロケ地での活用、カフェでの活用など、地域のものとして、地域での心の拠り所として活用していくべきであるという意見でした。</p> <p>そのほか、要望としましては、どんな考え方や手法をとっていくにしても、町全体として児童数を増やす方法は模索して行ってほしい、という意見でした。</p>
<p>1班 発表者</p>	<p>1班の内容について発表します。</p> <p>まず1つは、学校を再編することが必要ではないか、ということです。どこの学区という限定はしませんが、先ほどの学校の配置場所による通学距</p>

	<p>離の違いなどの観点も含めて、学校を見直す必要があるというのが1点目です。2つ目は、阿小と西小の部分で、学区の再編をしてはどうかという意見がありました。フローラルアベニュー地区は通学区の阿小が遠く西小に近いのでその辺りも見直す必要があるのではないかという意見でした。また、学区を急に変更すると様々な問題が生じる可能性があるので、最初のうちは学区選択制を取り入れるのもいいのではないか、という意見もありました。そのほか、1学級の人数が20～30人という考え方については、学級編製の基準を下げることによって小さな学校でも2学級から3学級に増えるということもあるので、基準定数を下げるべきという意見がありました。</p> <p>もう1つ、小規模校を統合してはどうかという意見も出ました。1つの案としては、「上高小と東小」、「北小と中央小」といった案が出ました。</p> <p>今後については、校舎の建替えや修繕のスケジュールや計画についても、見直しをして、これらの様々な検討を活かす必要があるという意見でした。</p> <p>また、少し話はずれますが、まちづくりの観点から、人口を増やさない限り対応は難しいという意見も出ました。現状の住環境では人口4万人は難しく、さくら市等に人口が流れていってしまうという課題に対して、まずは取り組んでいくべきであるという意見でした。</p> <p>また、学区や統合を考える上では、スクールバスや学童といった環境を整える必要があるという意見でした。</p> <p>さらには、統廃合等により地域コミュニティのつながりが変わっていくとしても、学校は地域コミュニティの中心であることから、地域の活力を失わないようにする必要があるという意見がでました。</p>
3班 発表者	<p>まず1つとしては、小規模校の統合が考えられるという意見でした。方向性としては、大きい学校である阿小・西小をそのまま残して、そのほかの学校を1校～2校、長期的には1校に統合していくという意見が出ました。それと関連し、地域が衰退しないように、1年から3年までは「分校」として残した学校に、4年から6年までは「本校」に通うという意見も出ました。</p> <p>2つ目は、阿小・西小の学区の人数をほかの学校に分けて学校を維持していこうという意見が出ました。</p> <p>3つ目は、単純に児童数を20～30人、2～3学級で分けて計算し、例えば3校であれば、計算上の理想の位置をシミュレーションして、最も望ましい場所に新しい学校3校を新設する、という意見も出ました。財源はないでしょうが、1つの考え・選択肢として出てきました。</p> <p>そのほか、人口を増やす施策にも合わせて取り組んでほしいという意見が出ました。</p>
議長 (副委員長)	<p>それでは、委員長から総括をお願いいたします。</p>
委員長	<p>本日の皆さんの意見を聞いていますと、同じような意見が多く出てきていますので、選択できる方策はそれほど多くないということになるかと思えます。計算上の話でいえば、先ほどの資料の2040年基準ですと児童数が1,113人の想定ですので、児童20人のクラスが2学級の「全校児童240人の学校」が4校程度という計算になりますが、意見にありました「学級編成</p>

	<p>基準の見直し」「小規模特認校」を考えると、4校よりもっと残していくという考えもあるかもしれません。また、スクールバスは財源が必要ですので、どこまでケアできるのかという問題もあります。理論値のデータではなく、高根沢町らしいやり方を決めていければと思います。</p> <p>また、大きい学校の学区を分けて縮小していくというのは、なかなか合意が取りづらいやり方ではあるとおもいますが、手法の1つではあると思います。</p> <p>そのほか、人口を増やすという施策については、やはり難しいと思います。日本全体が少子化していく中で逆に増やすということは、倍の頑張りが必要になるということでもあります。また、公共施設全体の維持管理・集約も関連してきます。</p>
議長（副委員長）	<p>ありがとうございました。そのほか班ごとの発表のほかにご意見はございますか。</p>
A委員	<p>芳賀町で9校を3校にした際の廃校の利活用事例のように、地域のコミュニティの拠点などに旧校舎を利活用できるようにするのがよいと思います。</p>
B委員	<p>学校規模適正化の話とは別に、役場庁舎整備についての検討が進められているようですが、現在とは全く別の場所に整備するとなると、学校の話にも大きな影響があるのではないのでしょうか。</p>
C委員	<p>私は庁舎整備の検討委員として参加していますので、庁舎の検討委員会の中で、学校規模適正化の検討や、給食センター整備などについて、まとめて横断的に検討すべきではないかという提案はしましたが、現状として、学校規模適正化とは別々で話をしてまとめるという説明を受けています。</p>
委員長	<p>私も庁舎整備の検討委員会の委員長として参加していますが、庁舎の検討については、まだ「庁舎の機能をどうするか」というところを検討しているものです。複合化についてはコストが下がりますので、考える必要はあります。今後は、整備について色々と決まっていくことと思いますので、学校を含めて検討するのかどうかなども出てくるものと考えていますが、現状ではまだ話は動き始めていません。</p>
議長（副委員長）	<p>ありがとうございました。それでは、最後に事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局（課長）	<p>次回会議は、7月14日（木）18時30分からです。それでは、以上をもちまして、第6回会議を閉会します。</p>